庭園間交流連携
促進計画

宮崎花旅365

2019(令和元)年5月

花ボラネットみやざき協議会

Photo:「エリザベスアンガス章太郎」
宮崎空港で発見された従来品種よりも一回り大きいブーゲンビリア

表紙裏

様式	項目	頁
１－１	表紙	ー
１－２	取組の将来像（ビジョン）	1
１－３	位置図	2
１－４	計画のテーマ	3
１－５	構成庭園一覧表	7
	１　宮崎ブーゲンビリア空港	7
	２　橘公園	9
	３　県立平和台公園	１１
	４　パークウエイ（阿波岐原森林公園）	１３
	５　市民の森	１５
	６　フローランテ宮崎	１７
	７　英国式庭園	１９
	８　THE LIVING GARDEN	２１
	（ｼｪﾗﾄﾝ･ｸﾞﾗﾝﾃﾞ・ｵｰｼｬﾝﾘｿﾞｰﾄ）	
	９　道の駅フェニックス	２３
	１０　宮交ボタニックガーデン青島	２５
	１１　こどものくに	２７
１－６	その他の取組	２９
	一里山　シバザクラ	２９
	オープンガーデン　サン・フラワー宮崎	３０
	青島ビーチパーク	３１
１－７	実施する事業と実施体制	３２
１－８	具体的な事業一覧表	３３

取組の将来像（ビジョン）

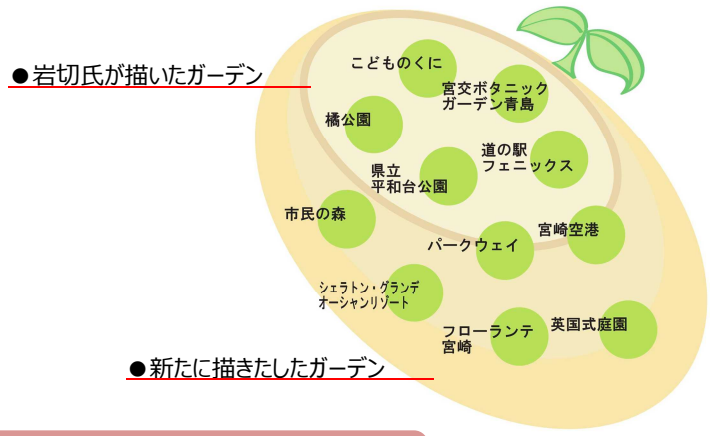
どこまでも澄み渡る空と青い海、豊かな緑と 365 日咲き誇る花々。そんな宮崎の大地をこよなく愛した観光宮崎の父、岩切章太郎。「自然の美・人工の美・人情の美」に象徴される氏のガーデンづくりは、人々の心に深く刻み込まれ宮崎の風土になりました。

岩切氏が蒔いた幾つものガーデンという種は、その志を受け継いだ人々によって大切に育てられ、美しく花開き宮崎の肥沃な大地に新たな種を落としました。

そして、その種は新たな時代のガーデンとなり、今も広がり続けています。

ーそんな宮崎の花の物語を紡ぐ旅「宮崎花旅 365」ー

●岩切イズム第１章「大地に絵を描く」



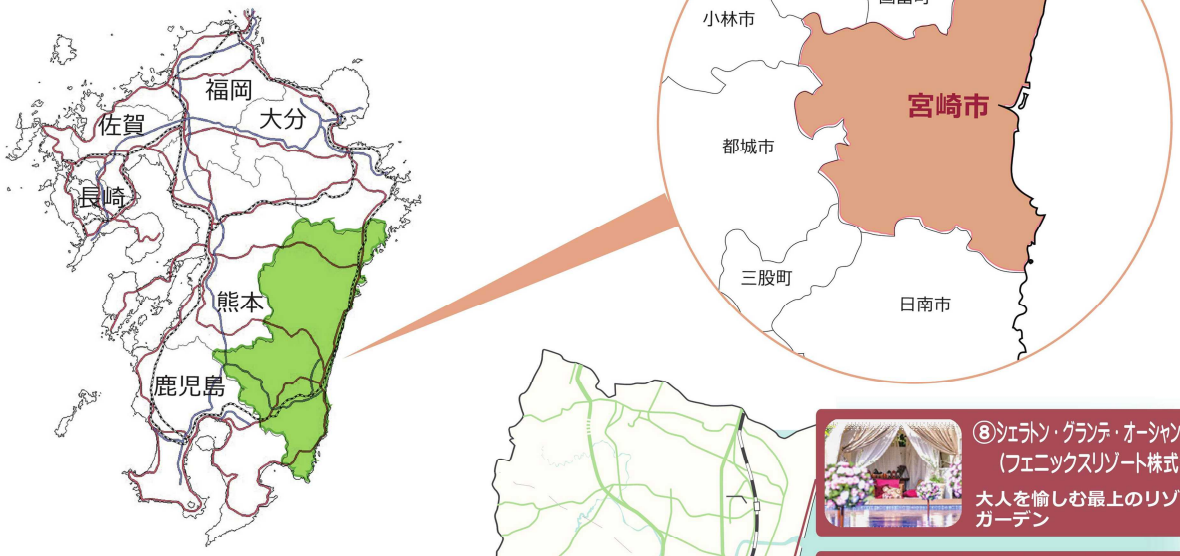
〔県・市〕

1959 全県公園化構想
1968 第１回フラワーショー
1969 沿道修景美化条例
1984 緑と花をふやす市民運動
1993 宮崎市花のまちづくり公社
1999 全国都市緑化宮崎フェア
2018 沿道修景美化基本計画
2018 美しい宮崎づくり推進条例
2018 オータムフラワーフェス

●岩切イズム第２章「大地の物語を紡ぐ」

〔構成庭園の位置図〕

宮崎花旅 365



③県立平和台公園
（宮崎県）
高台の平和の塔が街を見守る
ランドマークガーデン

②橘公園
（宮崎市）
観光宮崎を今に伝え未来に
繋ぐ、おもてなしガーデン

⑧ｼｪﾗﾄﾝ・ｸﾞﾗﾝﾃﾞ・ｵｰｼｬﾝﾘｿﾞｰﾄ
（フェニックスリゾート株式会社）
大人を愉しむ最上のリゾート
ガーデン

④パークウェイ（阿波岐原森林公園）
（宮崎県）
広大な緑に囲まれた癒やしの
ガーデン

⑤市民の森
（宮崎市）
神話の源流「みそぎ池」の
スピリチュアルガーデン

⑥フローランテ宮崎
（宮崎市）
花と緑と人の交差点、宮崎を
代表するフラワーパーク

⑦英国式庭園
（宮崎市）
日本初、ロビン・ウィリアムス
設計の森のガーデン

①宮崎ブーゲンビリア空港
（宮崎空港ビル株式会社）
宮崎の空の玄関口を、ブーゲン
ビリアの花々でもてなすガーデン

⑪こどものくに
（宮崎交通株式会社）
“誰もがこどもに” 岩切章太郎
の魂を受け継ぐガーデン

⑩宮交ボタニックガーデン青島
（宮崎県）
シンガポール植物園との日本
最初の友好植物園

⑨道の駅フェニックス
（宮崎市）
“南国宮崎の原点” 空と海が
織りなす絶景ガーデン

計画のテーマ（詳細）

「大地に絵を描く」から「大地の物語を紡ぐ」へ

１－１　岩切イズム第１章

どこまでも広がる青い海と空、風にそよぐフェニックスの木陰を楽しみながら散歩するカップル。

日本の一番南でもないのに、「南国ムードあふれる宮崎」というイメージが定着したのは、宮崎交通の創始者である岩切章太郎氏が、「大地に絵を描く」との理念の下、県土の資源を最大限生かした、個性的で先進的な観光地づくりによるものです。

おかげで宮崎は、昭和 30 年代後半から 50 年代初めにかけて、ピーク時には日本中の新婚カップルの 35%にあたる 37 万組が訪れるほどの、新婚旅行のメッカとなりました。後に「岩切イズム」といわれるこの特色ある観光地づくりの肝は、「自然の美」に「人工の美」を添えて磨きをかけ、さらに「人情の美」というおもてなしの心を加えるというものです。

また、この民間の動きに呼応するように、昭和 38 年（1963）宮崎県が「美しい郷土づくり運動」を提唱し、昭和 44 年（1969）には、沿道景観の保全創出と郷土の美化を目的とする「宮崎県沿道修景美化条例」を全国に先駆けて制定しました。宮崎市も昭和 59 年（1984）「まちに緑と花をふやす運動」を提唱し、平成 5 年（1993）には、「宮崎市花のまちづくり基本計画」を策定、市民総参加による「世界に誇れる花のまち・みやざき」づくりが進められました。

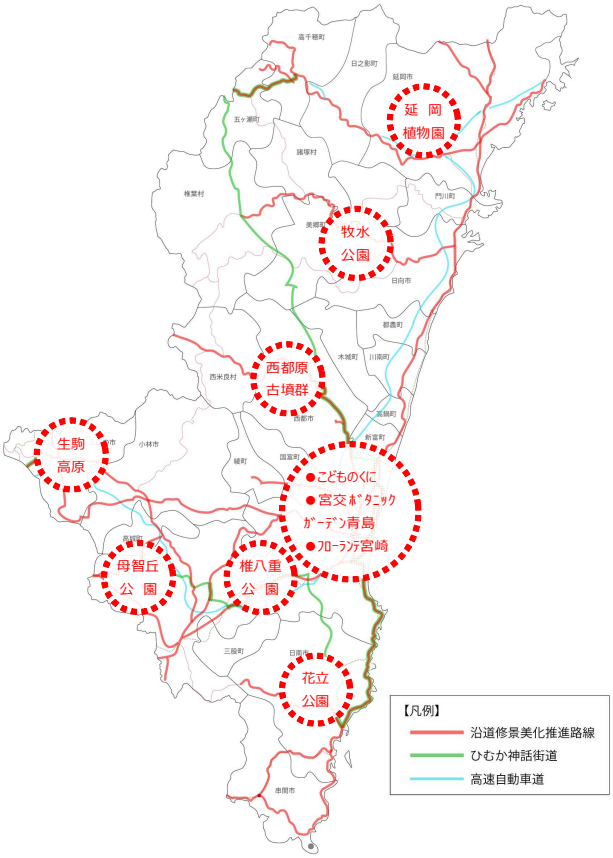
１－２　県民に息づく花と緑への愛着

宮崎の南国情緒あふれる景観やガーデンは、このように民間の先駆者と行政との強力なタッグによって築かれたもので、今では宮崎の貴重な緑のストックとなっています。

花の宮崎を県内外に紹介する「宮崎フラワーショー（後にフラワーフェスタに改称）」が、昭和 43 年（1968）から平成 23 年（2011）までの、実に 44 年の長きにわたって開催されたことは、宮崎県民の花と緑に対する愛着を示すものです。これは平成 11 年（1999）の「都市緑化フェア」の成功によって一つの結実を迎え、多くの花のボランティア団体が生まれています。

その後、花と緑づくりの遺伝子は、「花旅みやざき」と銘打つ各地での取組に受け継がれ、１年を通じて行なう、産業や文化を含めた PR 活動となりました。

「花ボラネットみやざき」も、その役割を担って活動しています。



県全体で開催されたフラワーフェスタ（2011 当時）

２－１　岩切イズム第２章に向けて

岩切章太郎氏のまちづくりの理念は、今では宮崎県民のアイデンティティとなり、各地のガーデンづくりやボランティア活動となって息づいていますが、これからの人口減少社会や社会保障費の増大等の諸課題に直面するとき、花と緑の力が、その課題を解く鍵になるものとして見直されています。

私達は、このガーデンツーリズムの取組を「岩切イズム第２章」と称し、託された宮崎固有の優れたストックを最大限に活用し、これらの社会の諸問題に対処していくことが重要だとおもいます。

先人によって「描かれた絵」から「物語を紡ぎ」、それを“未来につながる普遍の宮崎ブランド”として確立し、宮崎の人々の誇りあるコミュニティの再生と、持続可能な地域の活性化につなげていきたいと考えています。

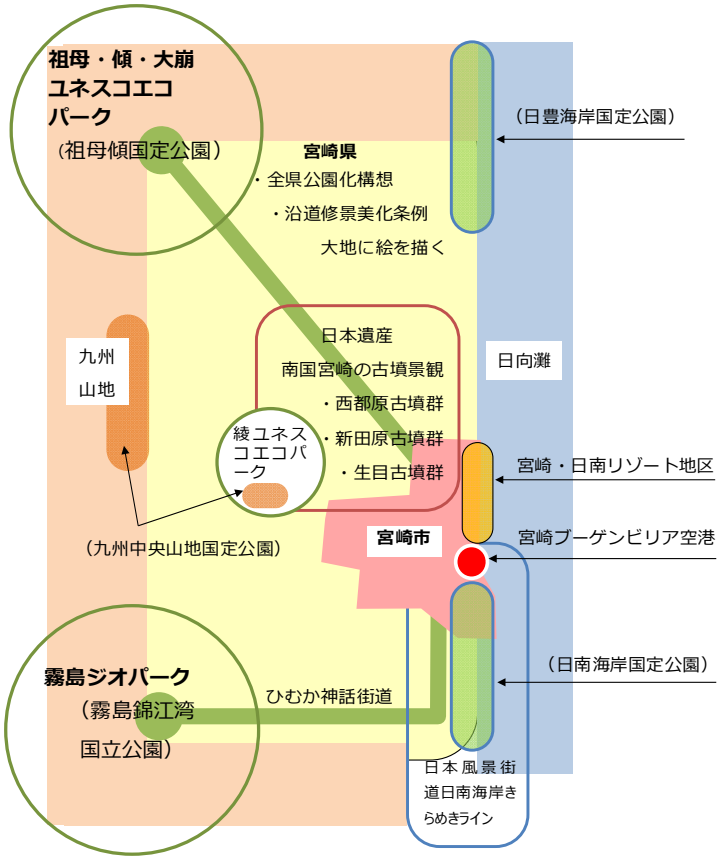
２－２　宮崎固有の豊かな緑

宮崎県は、周囲を九州山地と日向灘に囲まれており、かねてから「陸の孤島」と言われてきました。南北に長い県土には、地域毎に自然と人々の営みが織りなす特色ある伝統文化が育まれ、魅力的な緑の地域資源として現代に継承されています。

その意味で、県全体が Garden の語源である『囲われたエデン』です。

また、宮崎の緑のポテンシャルはとても高く、数々の観光の盛衰を経験して未だその根源的魅力を失っていません。

私達は、この魅力を未来につながる新たな「価値」として生かしていくことが大切だと考えています。



宮崎県の緑の資源

２－３　宮崎に咲く多彩なガーデン

（取組のスタートアップガーデン）

現代のストレス社会と連動するように、自然への回帰を求める動きが宮崎でもみられます。「阿波岐原森林公園」の森がスピリチュアルスポットとして紹介され来園者が増加したり、かつての新婚旅行ブームの中心「青島」においては、新たな世界観を提案する「青島ビーチパーク」が、若者を中心に人気を集め、移住者が増加しています。その他、オーガニックフェスタやヨガイベントも常に盛況となっています。

宮崎の「緑」は、このような要求に応える素質を有しており、各構成庭園は立地する地域の特性を尊重し、未来へと繋がる価値として個性を際立たせると共に、連携して効果を発揮することが重要だと考えています。先ずは宮崎市内のガーデンから取組をスタートし県全体に広げていきます。

２－４　ガーデンツーリズムによる地域の活性化

（１）個性の磨き上げ

・各構成庭園等は、地域特性を尊重し個性を一層輝かせるよう特色ある施設づくりを施します。

（２）連携交流の促進

・各ガーデンは、将来ビジョンを共有し、個々の強みを発揮すると共に、機能を補完し合い相乗効果を創出します。

・地域資源（食、歴史、スポーツ、アクティビティ等）と連携し、新たな価値を創造します。

・需要と供給それぞれの活動を喚起し地場産業の活性化と雇用の創出を図ります。

（３）持続性を担保する仕組づくり

・交通事業者等との連携を強化します。

・収益を、ガーデンづくりに還元できる仕組をつくります。

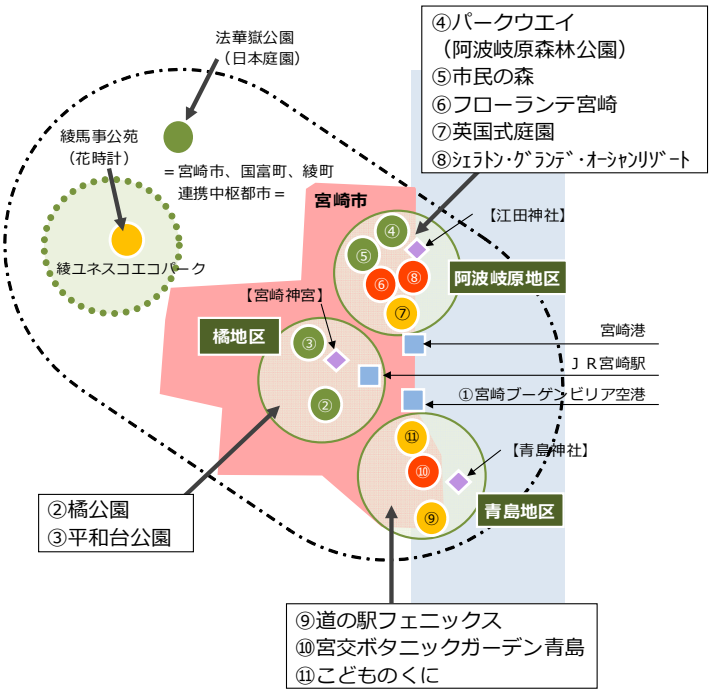
・持続的に発展可能な、体制づくりと人材育成を行います。

（４）進め方

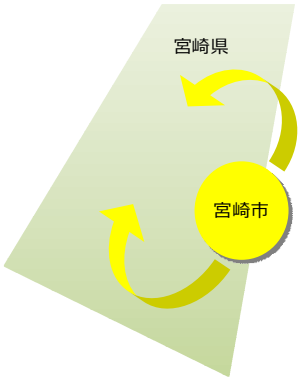
・宮崎市から取組をスタートし、県内に広げていきます。

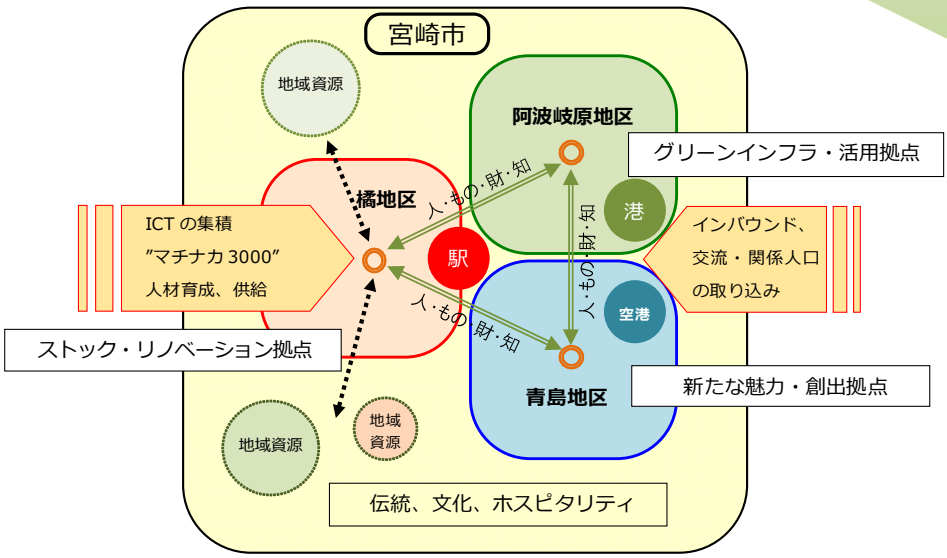
・他の多様なツーリズムと連携し、効果の促進を図ります。

・多様な主体と連携し、新時代のフラワーフェスタ開催を目指します。



宮崎市のガーデン





地域活性化のイメージ（宮崎市）

「観光宮崎の父」岩切章太郎

明治 26(1893) 年 5 月 8 日、宮崎県大淀村(現在の宮崎市)に 9 人兄弟の長男として生まれました。

幼少期を宮崎で過ごし、東京帝国大学法学部政治科を卒業後、３年間だけの約束で住友総本店に就職。その後自分の意思を通して宮崎へ帰郷、大正 15(1926)年４台のバスで宮崎市街自動車株式会社(宮崎交通の前身)を創立しました。

昭和 6 年(1931)年には定期遊覧バスを開始。後に全国に名をはせることになる観光バスガイドが初登場、宮崎の観光開発の第 1 歩を踏み出しました。

その後、日南海岸にフェニックスを植栽、こどものくにや橘公園などを次々と開園し「大地に絵をかく」夢を実行して、新婚旅行のメッカ宮崎ブームをつくり出しました。

～岩切氏の宮崎への想い～

「南方へのあこがれといっても、椰子やフェニックスが茂っていているというだけで観光価値が上がるのではない。この南方的な樹木の景色にそえて、美しいプロムナード（遊歩道）やすばらしいホテルやレストランなど近代的設備も完成され、すべてが一つの美しい観光的雰囲気に融合され統合された時、はじめて全世界の人々の心を魅了する力が生まれるのである」

「南国日向はこれでいいか」

新婚カップルでにぎわうこどものくに

観光バスが連なる日南海岸
多いときには 70 台ものバスが並んだという。

「宮崎の美しい自然を、少しでもより美しくするように、もし私のまずい絵が宮崎の美しい自然が汚されたら、それこそ県民に対して全く申しわけないことになると考えて、私の力の限りの心遣いをしてきたつもりである。大地にかく私の絵はまだ完成していない。私は今後も生きる限り、描き続け、描き足していきたいと思うのである」

「大地に絵を描く」

フェニックスドライブイン
（現在の道の駅フェニックス）

「宮崎に岩切あり」とその見識と手腕は中央でも高く評価され、地方バス会社の社長としては異例の国鉄総裁への候補にあげられたり、当時の岸首相からは全日空社長就任への直接説得されたこともありましたが、「私は宮崎に夢（大地に絵を描く）を抱いて帰った男です。その夢が実現するまでは宮崎を離れません。」と断った、というエピソードが残っています。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	みやざき　くうこう 宮崎ブーゲンビリア空港	構成庭園の所在地	宮崎市大字赤江
1	構成庭園の概要	 宮崎を訪れる人びとをもてなすブーゲンビリア 第 26 回「全国花のまちづくりコンクール」国土交通大臣賞受賞 まるでおしゃれなカフェ 美しい花々がもてなす搭乗待合室 「目指せ 2002 年！宮崎空港発 みやざきブーゲンビリア植栽プロジェクト」 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、空港の愛称「宮崎ブーゲンビリア空港」の浸透を図るため、平成 27 年度より県内にブーゲンビリアの植栽を行う活動を実施しています。ブーゲンビリアは宮崎空港内ハウスで挿し木により育成し、無償で各市町村に提供しています。 《概要》 開園面積　176.6 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎空港ビル株式会社 年間入園者数　約 31,780,000 人 プロジェクトでの植栽の様子 ブーゲンビリアによるおもてなしが空港から県内に広がっています。 初代社長の岩切章太郎氏の「おもてなしこそが最大の観光資源」との想いを継承し、日本一のおもてなし空港を目指す宮崎空港。平成 28 年度には、第 26 回全国花のまちづくりコンクールで国土交通大臣賞を受賞しました。 ターミナルビル入り口の「鬼の洗濯板」をモチーフに花々で彩る広場や、圧倒的なボリュームを誇るブーゲンビリアの植栽に加え、搭乗口や待合室、トイレの中までもをブーゲンビリアをはじめとする生花で飾るなど、「南国リゾートらしい」空間が、宮崎を訪れる人びとをもてなします。

1	計画のテーマでの位置づけ	 正面玄関を彩るブーゲンビリア 6 月が一番の見頃となります。 青島と鬼の洗濯板の レプリカがお迎えする 「ウェルカム広場」 宮崎市・宮崎空港ビル(株) 共同花育プロジェクト「親子でつくる ブーゲンビリアの盆栽づくり講座」 グリーンキーパーによる 講座が大好評です。 空港内で生産されている ブーゲンビリア 宮崎空港ビル初代社長でもある岩切章太郎氏が大好きだったブーゲンビリア。昭和 40 年頃から空港をはじめ県内各地に植付を行ってきましたが、気候風土が合わずなかなか育ちませんでした。 ところが、岩切氏が亡くなられる前、病床で「夢で観音様にお逢いしてブーゲンビリアの事を頼んだら「任せておきなさい」と言われたから、これから心配せんでいいぞ。」と社員に明かされたことがありました。 その後、平成 2 年に宮崎空港新ターミナルビルを建築した際に、岩切氏の想いを受け、玄関口や周辺にブーゲンビリアを植栽したところ、不思議なことに真冬以外は年間を通して見事に花をつけるようになりました。 宮崎空港ビル(株)は、現在も岩切氏の志を引き継ぎ、花であふれる宮崎づくりを地元の人々と共に行なっていくため、毎年ブーゲンビリアのプレゼント会（500 鉢）を実施するほか、県内各地の市町村と共同でブーゲンビリアの植栽活動も続けています。 また、空港周辺の企業や行政と協働で、空港周辺道路の植栽ボランティア活動等にも取り組んでおり、宮崎の玄関口として宮崎ならではのおもてなしを行い続けています。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

<table>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>ふりがな
構成庭園の名称</td><td>たちばなこうえん
橘 公園</td><td>構成庭園の
所在地</td><td>宮崎市松山２丁目１－１</td></tr>
<tr><td>構成庭園の概要</td><td colspan="3">

雄大な大淀川沿いに広がる橘公園

《概要》
開園面積　2.0 ha
入園料金　無料
公開時期　通年
施設管理者　宮崎市
年間入園者数　　－　人

ブーゲンビリアが木陰をつくるベンチ

宮崎市中心部をゆったりと流れる大淀川沿いに、長く大きな葉を陽光がまぶしく照らすフェニックスの並木道が続き、その足元には、ブーゲンビリアや彩り豊かな草花が一年を通して咲き乱れる、南国情緒漂う観光客や市民の心を和ませもてなす公園です。
また、全長 700ｍの園内に整備された遊歩道沿いにはロンブルも設置され、文豪川端康成が書き下ろした NHK 朝の連続テレビ小説「たまゆら」の舞台にもなった、雄大な景色を気軽に楽しめるスポットとなっています。
</td></tr>
</table>

2	計画のテーマでの位置づけ	 市街地玄関口のおもてなし花壇 フェニックス並木を彩るブーゲンビリアと草花 文豪川端康成も愛した大淀川の夕日 昭和 29 年、土地区画整理で県と建設省（当時）が河岸公園化を決定した際、宮崎交通株式会社の岩切章太郎氏らがヨーロッパにならって河畔沿いに公園を作ろうと提案を行い、フェニックスの植栽や遊歩道を整備し寄贈された公園です。 公園のシンボルの青と白、赤と白のストライプ模様のテント「ロンブル」は、当時流行り始めたカメラのカラーフィルム化に合わせて、フェニックスの緑とカラフルなロンブルで景色に彩りを与えることで、この場所で宮崎に訪れた記念写真を撮ってもらいたい、との岩切氏の想いが込められています。 現在も、市民の散策コースとしてはもちろんのこと、市内を訪れた観光客の夕涼みスポットとしても人気の高いガーデンです。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

<table>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>ふりがな
構成庭園の名称</td><td>けんりつへいわだいこうえん
県立平和台公園</td><td>構成庭園の
所在地</td><td>宮崎市下北方町</td></tr>
<tr><td>構成庭園の概要</td><td colspan="3">

《概要》
開園面積　68.8 ha
入園料金　無料
公開時期　通年
施設管理者　宮崎県
指定管理者　(株)馬原造園建設
年間入園者数　47,700 人

平和の塔を彩る春花壇

《主なイベント》
各種ワークショップ（通年）
・フラワーアレンジメント、ハーバリウム教室
・寄せ植えなど各種ガーデニング教室
平和台公園マーケット（年２回）

市街地北西部の丘陵地に位置し、宮崎市街地の眺望が臨める平和台公園は、ランドマークとなっている「平和の塔」を中心とした緑豊かな公園です。
園内には、オオシマザクラやエドヒガン、ソメイヨシノ、ヨウコウザクラなどの多種な桜をはじめ、一年を通して花々が彩り、アスレチック広場をはじめ、運動広場、はにわ園、散策園路や展望台も整備され、幅広い年代の人々の憩いの場となっています。
</td></tr>
</table>

3	計画のテーマでの位置づけ	 桜と草花の共演 紅葉する池の中のラクウショウ はにわ園を彩るサザンカ 昭和 15 年に「紀元 2600 年記念事業」として建設された「平和の塔」を中心とする緑深い高台一帯を、昭和 37 年都市公園として開園しました。 当公園は昭和 39 年、東京オリンピックの聖火リレーの第 2 スタート地点となった事でも知られています。 当公園は、一年を通した花のおもてなしを提唱した岩切章太郎氏の理念に基づき、昭和 43 年より 44 年間続けられ、県内各地で宮崎の春を彩った「みやざきフラワーショー」のスタート会場でもありました。 現在でも、園内各所の季節を通した花々が、訪れる人びとを癒します。